

「特別支援教育の指導充実の取組」

北海道札幌あいの里高等支援学校 主幹教諭 渡部一也

【取り組むきっかけ等】

余市養護学校に転任後、コーディネーターの命を受け、地域支援などの業務に携わらせていただく機会をいただきました。その後、道央圏に設置する高等支援学校の開校準備に携わらせていただきました。コーディネーター業務や開校準備業務などを行う中、特別支援教育の指導充実を図る上で、学校を取り巻く地域や関係機関がいかに重要かということについて、あらためて認識することができた貴重な機会でした。

【取組を通じて、うれしかったこと】

コーディネーターのときは、数多くの幼児児童生徒とその保護者、また、支援に関わっている職員と面談や相談などを行いました。関わらせていただいた教育相談の中で、子供の支援に向けて保護者と共に進むことができたときや、幼児児童生徒の気持ちや行動に変容が見られたときは、大変うれしかったです。

【取組を進める上で、苦労したこと】

コーディネーターのときは、何より自分の知識の少なさと見識の狭さを痛感しました。発達検査の概要や検査結果の解釈から支援を行う上での具体的な取組まで、生徒や保護者の学校の状況などを踏まえながら助言を行うには、今までの経験の整理と新たな勉強が必要でした。

【取組を進める上で、日頃から心掛けていること】

このような経験を通して、生徒の支援や業務の推進を行う上で、物事をできるだけ様々な角度から多面的に見るように心掛けています。特に支援に関しては、生徒はもちろんのこと、家庭や地域の状況を把握するようにしています。また、業務などの企画立案するにあたっては、チームで物事に取り組み、話し合いを大切にしながら進めるように心掛けています。

【今後の取組について】

現在の勤務校では、今までの取組を本校の特色の一つとしてより着実なものにしていきたいと思えます。また、まだ新しい学校ですので、さらに新たな取組についても企画・立案できるのではないかという気持ちもあります。

生徒に対しては、学校生活を通して、自分の長所に気付いて自信を持ってほしいです。また、私自身がコーディネーターや開校の業務を通して感じたように、責任を持って仕事に取り組む喜び、周りから感謝される喜び、周りを信頼する大切さ、そして「自分が社会に必要とされる人であること」を感じてもらいながら、社会参加できるように、今後も特別支援教育に携わっていきたいと思います。